

No.とプログラム名	No.9 大地震発生！その時、わたしにできること
実施日・回数	8月6日（火）から8月8日（木）1日2回 計6回実施
会場	【神奈川区】横浜市民防災センター
参加児童数	152人
企業・団体等名	横浜市消防局横浜市民防災センター
参加の目的 (150文字程度)	地震火災体験及び体験プログラムを通して「災害発生時、自分には何ができるか」を主体的・対話的に考えることのきっかけを作ります。

プログラム内容（子どもたちが体験したこと）

地震の講話、地震の体験
AR防災体験

（AR技術を活用した避難所体験や浸水体験、非常食の試食）
避難所課題解決ゲーム（意見発表）

当日の流れ

- 1 地震の講話30分
- 2 地震の体験15分
- 3 AR防災体験60分
- 4 避難所課題解決ゲーム（意見発表、講評含む） 45分



（AR防災体験の様子など）



（避難所課題解決ゲームをする様子）

参加児童の様子や意見、感想など

参加児童からは、「勉強になった」「防災ポスターを書く時の参考にします」などの声をいただきました。

令和6年能登半島地震で派遣に行った消防職員の講話や地震体験では真剣に聴く姿勢が見られました。

意見発表の場では、避難所での課題などを挙げ、各班で出た意見をリーダー中心にまとめ、他の参加者の前で発表するために他学年の子たちが積極的に意見する場面や恥ずかしそうにしている場面がありました。

AR防災体験では、VRゴーグルを付け避難所の状況や実際の段ボールベットに寝るなどの体験をしました。

非常食（アルファ米）の試食では、「思ったより美味しかったからもっと食べたい」などの意見も出ました。



(防災講話の様子)



(班で意見をまとめている様子)

企業・団体の気付きや感想など

子たちの学びの姿勢に感激しました。また、学年関係なく個人の得手不得手をフォローし合う場面を見ることができて良かったです。

また、保護者の方々にも防災について一緒に考えてもらい、「勉強になりました」との声も聴くことができて、良かったです。

運営側として、参加者は先着順の受け入れでも良いのではないかと感じました。理由としては、抽選後の当選メールを送った際にキャンセルされてしまい、個人メールのやり取りや補欠当選メールの送付などの事務作業が増え、個人情報漏洩のリスクが高まったように感じました。個人的には募集期間中に勧められる作業が少なく、スケジュールに余裕が欲しいと思いました。

【3日間合計 参加児童数152人、保護者含む総勢259人】



(令和6年能登半島地震の話をしている様子)



(AR防災体験する様子など)